

タイトル

『二人きりのハイキング』〔お題「雨が止んだあと」〕

本名：池端正樹

ペンネーム：あんずあめ @ikehata2025

【ハイキング 休憩ポイント】

しのぶ「ハア ハア ハア」

しのぶ、みんなから遅れて休憩ポイントに到着

今日は5年生のハイキングで近くの山に登ってる

クラスメイトのそうへい君が声をかける

そうへい「遅っせー ビリだぜノブタン リュック見してみ」

しのぶ、返事できないへたり込む

そうへい「あああ、何でこんなに荷物多いんだよ 重いやつ俺持つからな」

しのぶ「そうへいくん ゴメン」

しのぶ『そうへい君、クラスのリーダーポジだから

足手まといの私まで心配する羽目に・・・』

そうへい「ここでリタイヤしてもいいけどどうする？」

しのぶ「頂上（てっぺん）登りたいから」

そうへい「よしじゃあてっぺん取りに行くか 5分休んだらな」

【頂上】

頂上ではクラスメイト達がもう到着してお昼を食べている

自分たちの学校が小さく見える

涼しい風が通り抜ける

そうへい「みんなもう飯くってんじゃーん」

ビリで到着した二人だけが眼下の景色に目を奪われる

しのぶ、そっとそうへいの横顔を盗み見る

そうへい「腹減った！」

しのぶ『10年後もこの街もここから見た景色も覚えていよう』

【頂上】

しのぶ 吐き気をもよおしてゲロを吐く

しのぶ『すきっ腹にかっこんだせいだ...気持ちワルイ』

モブ「先生！御手洗さんがゲロをはいてます」

先生「御手洗 みんな下山するけど君は少し休んでから降りなさい」

先生「里中 また御手洗についてやってくれないか」

そうへい「しんがりですね了解っす」

【下山】

そうへい「ちゃんと 俺のあとついて来いよ」

しのぶ「はい」

しのぶ『やさしいな そうへい君は』

そうへい「トリュフを探す豚は全部メス豚らしいぜ 何か匂わないノブタン、
ノブタン？」

そうへい「ノブター」

しのぶ「ここ、助けてー」急な斜面に今にも落ちそうだ

そうへい「今 引っ張り上げる」

二人斜面を10メートル程滑り落ちる

【川沿い】

しのぶ「わー——！」

そうへい「うわっ！」

河原まで滑り落ちて止まる

しのぶ「いててて そうへい君大丈夫？」

そうへい「平気 おまえは？、、、そうオッケー」

そうへい「あそこからか、、、結構滑り落ちたな」

しのぶ「みんなの所に戻らないと」

ズルッ 再び滑り落ちる

そうへい「おーい誰かー おーい 離れ過ぎたダメだ」

しのぶ「誰か気づいてすぐに助けにきてくれるよね」

そうへい「助けはこない 最後尾だから気づかれないと思うきっと」

ゴロゴロとかみなりの音

そうへい「川沿いに降りよう」

谷になった急な流れの川 膝下くらいまで水につかる

【山中】

あぶない場所で手を貸してくれる

雨が強くなってきた 増水が心配になる

川から少し離れて林の方に登って休んだ

雨宿りしながら リュックのお菓子を二人で食べた

身を寄せ合っておしりや背中がくっついている

二人とも結構びしょぬれだ

そうへい「(くっついててもいちいち) 気にすんな仕方ないだろ うわっ冷た」

しのぶ「・・・」

しのぶ『そうへい君とくっついてるところが燃えるように熱い』

学校から見てハイキングの山は北の方角
せせらぎの支流はいずれ北西から南東へ流れている本流につながる
南へ続く山道や林道にぶつかればいいのだけれど
太陽が曇っていて真南が分からない
木の切り株や水筒のコップに浮かべたお手製の方位磁石を頼りに
南へ進んだ

【山中】

そうへい「熊が出そう」
しのぶ「そしたらわたしたちなんかペロリだね」
そうへい「・・・わっ！」大きな声を出す
しのぶ「わあwー!!」
手にした棒切れでわざと音を立てながら進んだ

しのぶの脳内

『熊が立ちはだかる そうへいくんが狼になる 私も豚の姿になる
勇敢に熊に立ち向かう狼 熊を倒す 豚の私を見つめる狼』

しのぶ『もし食べられて死ぬとしたら私は狼に食べられたい』

【道路】

雨は止んで明るい光がさしてきた
急に視界が開ける
そうへい「やっと道路にでたー」
舗装された道の真ん中に二人でへたり込む

ざわざわと声が聞こえる クラスのみんなの集団が近づいてくる

先生「あれ、お前たち一番後ろじゃなかったか？」

そうへい「マリオのショートカットっす」

おしまい

作/あんずあめ 『二人きりのハイキング』 お題〔雨が止んだあと〕 1650 文字